

## 令和5年度 第1回海老名市文化財保護審議会会議 次第

日 時 令和5年6月20日（火）

9時30分～

会 場 こどもセンター301会議室ほか

### 現地視察

海老名市上今泉四丁目 常泉院脇独鈷井戸ほか

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 議 題

(1) 海老名市登録有形文化財の保存修理について 資料1  
・高札（慶応2年 国分村）

(2) 県指定天然記念物にかかる保存修理について 資料2  
・海老名の大櫓

### 4 報告事項等

(1) 令和4年度事業実施結果 資料3

(2) 令和5年度事業概要 資料4

(3) 相模国分寺跡・国分宿遺跡第27次調査について 資料5

### 5 閉 会

○常泉院 金龍山と號す、曹洞宗 愛甲郡七澤村 廣澤寺末 當寺は往

昔密僧白翁一寺を建て、今泉山福泉寺と號す 今も山内の高峯を

福泉峰と呼ぶ、其後廢絶せしを、天文十九年本寺第三世勇安更

に法燈を挑け今の山寺號に改む 境内深谷中より清泉常に湧出するを以、寺號を得

たり本尊虚空藏を安ず、寺領七石は慶安九年九月十七日

御朱印を賜ふ、△天神白山合社 △山神社 △秋葉社

△鐘樓 鐘に寶永七年の銘あり、○西光寺 明谷山と

號す 前寺末 貞享元年本寺三世僧智翁建立す、本尊釋迦

を安ず、○經藏院 日照山安養寺と號す、本山修驗

小田原玉瀧坊配下 相傳へて古此所に梅元坊と云驗者あり、國分

村内日月明神の別當たりしが、梅元死後廢絶す 日月明神社棟

札に正治元年志主廣綱、大小百姓等別當修驗梅元坊とあり 夫より足利の時世に至り、

貞觀法印と云もの 貞觀が十三世の祖は、鎌倉四修驗の其一なりと云ふ、鎌倉上之村

に住せしが貞治の頃鎌倉を去り、諸國を遊行して此地

に來り、梅元が古蹟を再興し、日月山經塚院櫻井梅之

坊と號す 貞觀は正長元年十月七日卒 後數世を歴て延寶年間、又改めて今

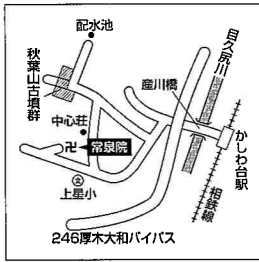
の山寺號となれりと云ふ、護摩堂に不動を安ず、△塚

梅元坊と呼ぶ、○地藏堂二、常泉院持、

# 常泉院



曹洞宗愛甲郡七沢村広沢寺  
末。本尊は木造虚空蔵菩薩坐像  
(写真、像高19・1寸)。割矧造  
と思われ、玉眼嵌入。造り方か



所在地 上今泉4-3-1

ら、室町時代ごく初期の制作と  
みられている。  
聖観音と思われる木造菩薩坐  
像(像高18・5寸)は、寄木造、  
彫眼。元和9年(1623)の  
作で作風は、室町期のものを踏  
襲しているとされる。他に、室  
町風の作風をもつ木造如来坐像  
(像高21・5寸)や、江戸時代  
に造られた、木造達磨大師・大  
権修理菩薩像などを蔵する。

## むかしばなし⑤ 三日月井戸と独鉦井戸



三日月井戸

≪三日月井戸≫  
客殿東側の山裾にあり、一坪余の三  
日月形をした泉で、底まで見透かせる  
澄んだ水を湛えている。この井戸は別  
名法師様の井戸と呼ばれ、弘法大師に  
関係した面白い伝説がある。

往時このあたりは、秋葉の峯に続く  
深山であり、この井戸の湧水量も多く、  
寺院の生活用水であったと考えられ  
る。近年周辺一帯の丘陵は開発が進み、  
井戸の湧水量は極めて少なく、荒廃し  
ている現状であるが、末永く当山の史  
跡として整備保存したいものである。  
≪独鉦井戸≫

山内右手、寺有地にある四坪ほどの  
池で、往時は常に満々と清冽な冷水を  
湛えておった。この池水は、上方の三  
日月井戸よりの流れと合流し、豊富な  
小川となり、門前を旧道沿いに心地よ  
く西方に流れておったが、昨今は汚水  
の側溝となっている。

この井戸水は近隣民家の飲料水とな  
り、朝夕桶をかつぐ水汲みの人々に  
ぎわったのである。又数戸の民家が共  
同で、太い青竹を接ぎ簡易水道を敷設  
したこともあり、いずれも昭和30年頃

まで使用されておった。  
尚この井戸水や、小川の流に恩恵  
を受けたものに学校がある。現在は地  
形が変わり当時のおもかげはないが、  
昔寺院山門前向い側道路沿い、稍々小  
高いところに敷地面積170余坪の学  
校があった。

明治5年8月初めて学制が發布され  
海老名地区では、四ヶ所に学舎が新設  
された。このうち最も早く創設され  
たのが、常泉院内の「源泉学舎」であ  
った。明治6年5月のことである。幕末  
より明治初期の頃は、世のすべてが変  
遷の甚しい時期であり、学校も亦同様  
であった。

明治7年1月に至りこの源泉学舎は  
廃止され、改めて栗原村専福寺内に  
「協同学舎」が創立、これに併合され  
たのである。ところが翌明治8年8月  
1日分離して、再び常泉院内に「今泉  
学舎」として開校、後「小学今泉学舎」  
と改称された。これより5年後明治13  
年8月5日、前記の場所(上今泉92  
0番地)に、資本金一千元をもって漸  
く新校舎が設立され、この学校が後の  
尋常高等海老名小学校今泉分校とな  
ったのである。

さて、この学校にも一つの車井戸が  
あったが、子供達による水汲は容易で  
はなかった。したがって生徒の飲料水  
や、掃除用水等の多くは前記寺院の井  
戸や、小川の水が使用されたのであり、  
この学校の数多くの出身者の忘れられ  
ない思い出の一つである。

『海老名市史9 別編 民俗』から転載。

## 海老名市登録有形文化財の保存修理について

1. 対象資料：高札（慶応2年 国分村）

2. 保存修理の目的

資料下端部を中心に傷みがあるため、脆弱部分を強化し、資料の保全を図る。

3. 保存修理の内容

・脆弱部分（主に下端部）のクリーニング及び樹脂塗布

※留意事項：極力現状を変えないこととし、クリーニングや樹脂の塗布による変色（脱色）や、資料の風合いを変えないものとする。

4. 予定行程

①虫食い、破損部について、圧縮空気ですくずの取り除き

②アルコール等でのふき取り

③乾燥後、樹脂塗布



資料 脆弱部分



脆弱部分





脆弱部分拡大

県指定天然記念物 「海老名の大櫨」 保存修理について

○海老名の大櫨

海老名市国分南一丁目 1150 番地先

【令和 5 年度】 保存修理

既存ブロック塀・木柵の撤去、土留め工  
根部分の露出、道路側への移行を確認。  
それによりブロック塀が道路側へ倒壊、  
根の損傷の恐れがあるため、既存塀・柵の撤去を行い、  
客土を搬入し、新たに土留めを設置する。

【現状】



○県道 40 号側



○県道 407 号側



【作業範囲】

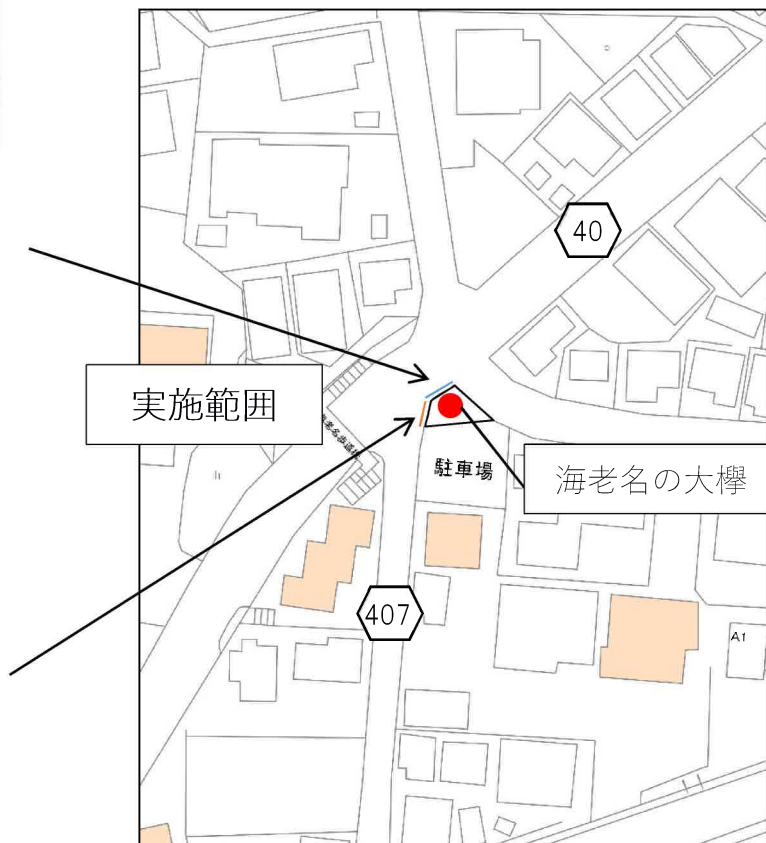
ブラ擬木：板柵土留



○県道 40 号側



○県道 407 号側



県指定年月日 昭和29年 3月30日  
幹周9.2m、高さ12m



# 「海老名の大榎」今後の保存処置について

【現地確認状況】 令和5年6月15日（木）

・ 樹木医立会にて現地確認

<東北側より>

<東側より>



## 【建仁寺垣隙間】

- ・ 樹木腐朽による隙間発生
- ・ 安全上、景観上空洞部分をふさぐ対応が必要

## 【コブ部分状態悪化】

- ・ 落下の恐れあり対応必要
- ・ 上部枯損枝の剪定、負担軽減
- ・ 支柱による樹木落下防止対策

## 【緊急対応】



・ 空洞部分の処置

- ・ 負担軽減：上部枯損枝の剪定
- ・ 支柱等の設置（樹木落下防止対策）検討

## 令和4年度 文化財保護・活用事業実施結果

## 【温故館維持管理経費】

- 収藏品展「中世びとの祈りの形～海老名の中世石造物～」

R4. 7. 21～10. 23 来館者 2, 238 名

鎌倉時代から室町時代にかけての市域に見られる石造物

(板碑、五輪塔、宝篋印塔) を紹介

※綾瀬市と

- 海老名市登録有形文化財高札特別公開

R5. 1. 8～1. 22 来館者 529 名

初めて市登録文化財となった高札の展示公開を行った。

- 企画展「えびな近代鉄道物語」開催

R5. 3. 28～ 海老名駅北口開設などにあわせ、鉄道関係資料を公開した。

- 展示資料貸出 新宿区歴史博物館、大田区立郷土博物館、福祉政策課

- VR体験

VR機器を常設し、奈良時代の相模国分寺のVR作品を視聴できるよう環境を整えた。

- 維持管理

建物清掃、警備、エレベーター修理

- 寄贈資料

講道具、そろばん



中世びとの祈りの形展示の様子

## 【歴史資料収蔵館維持管理経費】

- 収藏品目録第2集を刊行

社家地区の清水登美子家資料等を目録化し、ホームページ等で公開した。清水家資料の一部は温故館企画展で公開

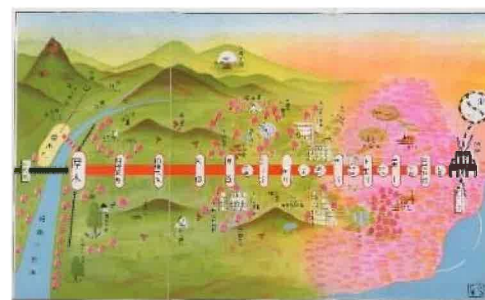
- 寄贈資料

海老名町勢概要、御守り、上郷共有地資料、

清水登美子家資料、浜田家資料、中新田周辺の大正～昭和の写真

- 郷土資料館条例施行規則及び歴史資料収蔵館設置施行規則の一部改正 (R5. 4. 1 施行)

博物館法改正に等に伴う一部改正



清水登美子家寄贈資料 神中鉄道案内図

## 【文化財保護事業費等】

- 市指定重要文化財などへの助成支援等

市指定重要文化財補助金(有形文化財等 20 件、無形民俗文化財 1 件計 695 千円)

はやし保存連絡協議会への補助金 (150 千円)

- 市文化財保護審議会

R5. 10. 5 市登録有形文化財の登録、国登録有形文化財の意見具申についてほか

- 国登録有形文化財登録にかかる手続き

「海老名市温故館(旧海老名村役場)」

R5. 3. 17 文化審議会から文部科学大臣へ登録するよう答申



## ○市登録有形文化財登録

江戸時代から明治時代初期にかけての「高札」5件8点を市登録有形文化財に登録

## ○史跡等の維持管理

史跡相模国分寺跡・史跡相模国分尼寺跡・史跡秋葉山古墳群・今福薬医門・浅井の水等の草刈、樹木剪定／有馬のはるにれなど害虫駆除／海老名の大櫨維持管理／秋葉山古墳群ナラ枯れ樹木伐採／相模国分寺跡花壇土留修理など

## ○天然記念物保存修理

海老名の大櫨：枯死した枝の除去、剪定による幹部負担軽減  
有馬のはるにれ：支柱塗替え、建仁寺垣交換など



海老名の大櫨剪定等状況

## 【文化財活用事業費等】

### ○えびな文化財探求舎体験講座

- ①石器づくり 8月2日 参加者：9名
- ②勾玉・瓦づくり 8月3、4日参加者：44名

### ○相模国分寺跡VRコンテンツ体験会

R4.5.14 中央図書館 参加者83名

### ○相模国分寺跡復元アプリ「相模国分寺360」の公開

iPad用アプリを湘南工科大学と協働で作成

### ○相模国分寺跡あそびのひろば

10、11、12、3月の4回開催  
相模国分寺跡 参加者約500名～300名

### ○温故館収蔵品展関連講演会

「中世石造物と葬送  
—神奈川県内の発掘調査事例を中心に—  
松葉 崇氏 ((公財)かながわ考古学財団)  
R4.9.23 文化会館 参加者51名

### ○文化財案内板等整備

相模国分尼寺跡案内板板面交換、郷土かるた標柱建替

### ○文化財ガイド(海老名ガイド協会に委託)

- ・渡辺嶺山ゆかりの道を歩く R4.6.4 参加者29名
- ・東光山国分寺御開帳と国分周辺の史跡を歩く  
R4.10.8 参加者28名
- ・古代の運河(逆川)をたどる R5.2.18 参加者32名

### ○郷土芸能の公開

- ・新春はやし叩き初め大会開催  
R5.1.29 参加・来場約600名
- ・ささら踊りの出前授業、大谷歌舞伎の児童発表など

### ○その他

文化庁作成動画「いせきへ行こう 海老名市編」公開  
文化財ガイド養成講座(海老名ガイド協会と共催)



相模国分寺360視聴の様子



相模国分寺跡あそびのひろばの様子



新春はやし叩き初め大会の様子

### 【埋蔵文化財調査事業費】

- 開発工事等の前の試掘等調査 12件  
(国分尼寺北方遺跡、相模国分尼寺跡、  
No. 24・25 遺跡、相模国分寺跡・国分宿遺跡、  
大谷下浜田遺跡、大谷市場遺跡、)
- 個人住宅建築に伴う発掘調査 4件  
(相模国分尼寺跡、御屋敷遺跡、杉久保遺跡、  
相模国分寺跡・国分宿遺跡))
- 金属製品保存処理  
史跡相模国分寺跡出土鉄製品保存処理
- 出土品整理  
国分尼寺北方遺跡第 49、58 次調査出土品整理委託
- 発掘調査報告書刊行業務  
『国分尼寺北方遺跡第 49、58 次調査』刊行



相模国分尼寺跡  
溝状遺構発掘調査状況

### 【相模国分寺跡整備事業費】

- 史跡相模国分寺跡整備事業  
次年度用地買収に向けた不動産鑑定評価を実施

### 【相模国分尼寺跡整備事業費】

- 史跡相模国分尼寺跡用地買収  
次年度用地買収に向けた不動産鑑定評価を実施

### 【秋葉山古墳群ナラ枯れ樹木処理】(令和3年度からの繰越)

秋葉山古墳群で発生したナラ枯れ樹木 コナラ 11 本等を伐採処分

### 【海老名駅北口駅前広場文化財案内板等整備工事】(令和3年度からの繰越)

海老名駅北口ロータリー、中央公園に周辺文化財を紹介する案内板と、足元表示を設置

- ・海老名歴史さんぽ案内板 2基
- ・足元表示 33ヶ所



設置した案内板と足元表示

## 令和5年度 海老名市教育委員会教育総務課文化財係事業概要

事業名	事業内容	期日	事業費 単位：千円 (前年度予算)
温故館 維持管理事業費	<p>○市民の郷土意識・郷土愛を育むとともに歴史学習の場として郷土資料館「温故館」で資料の展示公開を実施する。</p> <p>○企画展やパネル展示等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「えびな近代鉄道物語」</li> <li>・関東大震災 100 周年</li> <li>・東光山国分寺所蔵銅鐘について</li> </ul> <p>○施設を適切に維持管理する。</p> <p>○小中学校の見学や学習対応</p> <p>○「奈良時代の相模国分寺」VR公開</p>	<p>通年</p> <p>春～夏</p> <p>夏～秋</p> <p>秋～冬</p> <p>適宜</p> <p>通年</p>	<p>13,890</p> <p>(12,395)</p>
歴史資料収蔵館 維持管理事業費	<p>○市史編さん事業で収集した資料や公文書を整理保存し、閲覧可能資料の整備、公開を行う。</p> <p>○施設の適正な維持管理を図る。</p>	<p>通年</p> <p>年度内</p>	<p>5,982</p> <p>(4,195)</p>
文化財保護 事業費	<p>○市内の文化財を適切な保護と指定文化財等の審議を行うために文化財保護審議会会議、部会（相模国分寺保存活用部会）を開催する。</p> <p>○市指定文化財への助成支援をする。</p> <p>○江戸時代から伝承されるまつり囃子や大谷歌舞伎、ささら踊りの保存伝承と活用を図るために各種助成等支援する。</p> <p>○県指定天然記念物「海老名の大櫓」、「有馬のはるにれ」の保存修理、維持管理を行う。</p> <p>○指定・登録基準に基づき、保存価値のある文化財を調査、指定・登録する。</p> <p>○スライド等写真資料の電子データ化し保全を行う。</p> <p>○ふるさと文化財ボランティアの協力を得ながら今福薬医門公園を維持管理・活用する。</p> <p>○史跡相模国分寺跡、史跡相模国分尼寺跡、史跡秋葉山古墳群を歴史資産として利活用するため、草刈や、破損個所の修理等、軽微な整備、適切な維持管理を行う。</p> <p>○高札（市登録文化財）保存修理を行う</p>	<p>各2回程度</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>適宜</p> <p>適宜</p> <p>適宜</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>適宜</p>	<p>12,796</p> <p>(13,028)</p>



文化財活用 事業費	<p>○史跡、文化財や出土遺物等を活用し、文化財保護意識の高揚、郷土愛の醸成のための事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験教室の開催（かながわ考古学財団との連携）</li> <li>・文化財ガイドの実施（海老名ガイド協会に委託）</li> <li>・文化財ガイド養成講座（海老名ガイド協会共催）</li> <li>・講演会の開催</li> <li>・文化財等の案内板の整備・補修を行う。</li> <li>・「相模国分寺360」アプリ活用</li> <li>・相模国分寺跡で遊具展開事業（「あそびのひろば」）を実施</li> </ul> <p>○相模ささら踊り大会への参加</p> <p>○文化財収蔵庫を適切に管理する。</p> <p>○発掘調査成果や出土品等の公開など活用を図る。 （ロマンスカーミュージアムでの展示等）</p> <p>○えびな郷土芸能大会開催</p> <p>○はやし叩き初め大会開催</p>	<p>夏季</p> <p>6、10、11、2月</p> <p>5月</p> <p>5月</p> <p>適宜</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>7月</p> <p>通年</p> <p>5月</p> <p>10月</p> <p>1月</p>	<p>3, 0 0 2 (1, 743)</p>
埋蔵文化財調査 事業費	<p>○市内 89 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)内で行われる土木工事等について適切な指導を行うため試掘調査等を実施し、埋蔵文化財の包蔵状況を確認する。</p> <p>○個人専用住宅建設に先立つ本掘調査、開発等に伴う工事立会等を実施する。</p> <p>○過去に実施した発掘調査の報告書を刊行する。</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>	<p>5, 7 7 1 (6, 137)</p>
相模国分寺跡整備 事業費	<p>○相模国分寺跡の買収、整備を行う</p> <p>○公園台帳の整備を行う</p>	<p>年度</p> <p>年度</p>	<p>1 5 1, 7 1 2 (0)</p>
相模国分尼寺跡整備 事業費	<p>○相模国分尼寺跡の買収、整備を行う。</p>	<p>年度</p>	<p>9 0, 7 4 5 (0)</p>
合 計			2 8 3, 8 9 8

令和4年度繰越事業

温故館改修事業費 温故館照明器具LED化改修工事

6, 4 3 9千円

## 相模国分寺跡・国分宿遺跡第27次調査について

## 1. 本格調査期間

令和5年3月22日～3月27日、4月25日～5月27日

※試掘調査（令和4年9月27、28日、10月11日、令和5年1月25、26日）

## 2. 調査場所

海老名市国分南一丁目1952番の一部（敷地面積450.71㎡）

## 3. 調査原因

個人住宅兼集合住宅（6戸3階建て 建築面積約129.89㎡）の建設

## 4. 遺跡概要

- (1) 名称 相模国分寺跡・国分宿遺跡（海老名市 No. 1）
- (2) 種別 社寺跡、集落跡
- (3) 時代 縄文・古墳～近世

## 5. 調査組織

海老名市教育委員会

## 6. 調査面積

調査面積約85㎡（試掘調査含む）

## 7. 発見遺構

溝状遺構（奈良～平安時代 相模国分寺跡関連）、土坑（縄文時代）、ピット

## 8. 出土遺物

瓦、土師器、須恵器、縄文土器、石器

## 9. 所見

確認された溝状遺構について、位置的に相模国分寺跡の区画溝の一部と考えられる。一部に掘り残しがありブリッジ状となっている。

溝状遺構の掘り方は、これまで確認されている区画溝と比較して荒い印象。

寺域への出入口部である可能性も考えられる。



— おおよその溝の位置

## 相模国分寺跡・国分宿遺跡第 27 次調査位置図